

研究主題 「新しい時代に生きる力を育む視聴覚(情報・ICT)教育の追究」 ～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業デザインを通して～

I 団体の概要

- 戦前の映画教育運動を継承し、戦後は東京都視聴覚教育研究会(略称「都視研」)として、半世紀にわたり、都内の幼稚園、小学校及び中学校における視聴覚教育の普及発展に貢献してきた。都内唯一、最大に学校教育研究組織を受け継ぐものである。
- 昭和46年6月19日に、学校種別に、いっそう集中的、効果的な活動をすすめるために、都視研を解体して、幼・小・中学校ごとの組織とし、小学校においては「東京都小学校視聴覚教育研究会」(略称「都小視研」)を結成し、今日に至っている。
- 都内すべての区郡市ごとの小学校視聴覚教育研究団体等によって構成し、都内全小学校に加盟していただいている。
- 都内の現場の先生方による実践・研究組織として自主的に運営している。

II 研究主題設定の理由

小学校学習指導要領(平成29年告示、令和2年度実施)では、「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力として言語能力、問題発見・問題解決能力等と同等に位置付けられた。また、情報活用能力は、情報活用の実践力、情報の科学的理解、情報モラルの3つとされているが、総則では「情報活用能力(情報モラルを含む)」と書かれている。さらに小学校においてもプログラミング的思考を体験的に育成することが明記され、小学校教育が大きく変革する内容となっている。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、国が「GIGAスクール構想」の前倒しを図り、各自治体では一人一台のタブレット端末配当が実現した。ICTなどの視聴覚的手法の活用による「学び」の転換が求められ、新たに「令和の日本型学校教育の構築に向けて」(令和3年3月)が示された。これらを受け、新たに第14次研究主題を策定し、研究を進めることとした。



III 研究のねらい

「学習指導要領」、「GIGA スクール構想」、「令和の日本型学校教育の構築に向けて」の内容を加え、「授業デザイン」と「カリキュラム・マネジメント」の2つの柱に整理して、以下のように設定した。

○ 望まれる子供像に向けて、各教科等の特性を踏まえ、ICT等を活用した授業デザインを工夫する

- ・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得するための授業デザイン
- ・課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むための授業デザイン
- ・主体的に学習に取り組む態度を養うための授業デザイン
- ・言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育むための授業デザイン
- ・体験を通して、プログラミング的思考を培うための授業デザイン
- ・豊かな創造性を備え、持続可能な社会づくりにつなげていく力を育むための授業デザイン

○ 個別最適な学びと協働的な学びを効果的に設定し、カリキュラム・マネジメントを工夫する

IV 研究の内容

「一斉学習」「個別学習」「協働学習」という3つの学習形態と、授業展開の過程に家庭学習や感染症・不登校対策などで登校できない場合を含む校外での活用も加え、マトリクスにした「ICT活用モデル」を構築した。児童がどういった場面でICTなどの視聴覚的手法を使い、ねらいを達成するのか…という視点で授業をデザインし、実践を通して学びの深化、学びの転換を図る。



VI 研究実践より

授業実践例① 第4学年 総合的な学習の時間『未来を作る、プログラミング大作戦！』 (北区作成プログラミング教材「きたらっち」の活用)

本単元は、中学年の児童が同区の開発したプログラミング教材を通して、安心安全な環境構築の下、プログラミングへの関心を深め、身近な生活に生かそうとする意識を高めることをねらい、以下の「授業デザイン」のもと指導を進めた実践です。

①課題を解決するために必要な思考力、判断力、思考力等を育むための授業デザイン

- ・プログラミングを体験しながら、論理的思考力や問題解決能力を育む。
- ・試行錯誤の中で、変更点や工夫を記録し、自分の考えを振り返る。
- ・「やってみる→話し合う→失敗を生かす」の流れを意識する。

②主体的に学習に取り組む態度を養うための授業デザイン

- ・プログラムによって身近な生活をより便利にする願いを実現させる体験を通し、プログラミングに興味をもち、課題に探究的に取り組む。



③個別最適な学びと協働的な学びを実現する

- ・各自のアイデアを深めた後グループ活動を通して学び合いを促進し協働的な学びを深める。

北区教育委員会「学び未来課」のバックアップにより、教員の授業準備へのサポート、授業中の児童へのサポート等が充実し、プログラミング等の指導における不安の解消に大いに役立っていました。また、活動中に感じた疑問や課題について「メモを取る」「スクリーンショットに残す」といったことが児童に身に付いていて、友達同士でも相談しやすい環境にありました。プログラミング教室に通う児童がいるなど、個々の能力差は他教科同様避けられない状況に対し、講師よりその対応に ICT 支援員等の活用が望ましいのではないかとのご指導をいただきました。

授業実践例② 第3学年 国語(書写)『「左はらい」と「右はらい」』(タブレット端末の活用)

3年生毛筆の学習において、タブレット端末を活用することで自身が最初に書いた文字について目標をもたせ、学習後の文字との比較により、良くなったところ、新たな課題を意識させる授業でした。隣の子が書いている様子を端末で動画撮影をし合って自分の書いている様子を振り返ること、提出したそれぞれの文字を端末で互いに見合っ参考にするなど、机上から端末が落ちることなく、道具の丁寧な扱いが身に付いていたからこそ安心して取り組ませることのできる学習になっていました。当日は中学書写部の先生も参観してくださり、書写指導を専門とする方からも高評価をいただきました。



研究活動「夏期講座」「冬期特別研修会」

夏期講座では、今年度も日進月歩の生成 AI について学び合う機会としました。ChatGPT だけでなく、様々な AI アプリが登場している今、それぞれどのような特性があるか、プロンプトにどのように入力し AI とどのように対話をしていけばよいか、より良い活用に近づけていたために大事なことは何かを、それぞれの知識や経験をもとに情報交換し、理解を深めました。その他、実技研修や、デジタル教材の操作体験等、その年の課題や注目度の高いテーマについて学んでいます。

冬期特別研修会は、箱根や熱海を会場として宿泊研修会として実施しています。OB も交え、情報教育について喫緊の課題をテーマに議論するとともに、会員の親睦を深める機会としています。研修会はオンラインとのハイブリッドで開催し、宿泊はしなくても研修には参加できる形を採用しています。

夏休み子ども映画フェア

教育映像祭の受賞作品を中心に15～20分程度の短編映画(主にアニメ)を5本選定し、都内の小学生親子を対象に、一般財団法人日本視聴覚教育協会との共催により毎年夏休みに無料で実施しています。作品は文学作品の他、戦争やいじめ、介護、ボランティア、子どもの権利等、今の時代を反映するテーマのものを選定していることに、参加者からの評価は高く、リピーターも多い行事となっています。会場は、文京シビック小ホールや、なかの ZERO 小ホールを利用しています。



| | | | |
|----------|------|----------------------------|--------|
| 団体名 | | 東京都小学校視聴覚教育研究会 | |
| 代表者 | 所属 | 中野区立鷺の杜小学校 | |
| | 職 氏名 | 校長 武智 直貴 | |
| | 連絡先 | 03-5364-7135 | |
| 事務局 | 所属 | 練馬区立練馬東小学校 | |
| | 職 氏名 | 校長 幅 健司 | |
| | 連絡先 | 03-3990-1094 | |
| 団体ホームページ | URL | https://teav.sakura.ne.jp/ | 二次元コード |
| | | | |